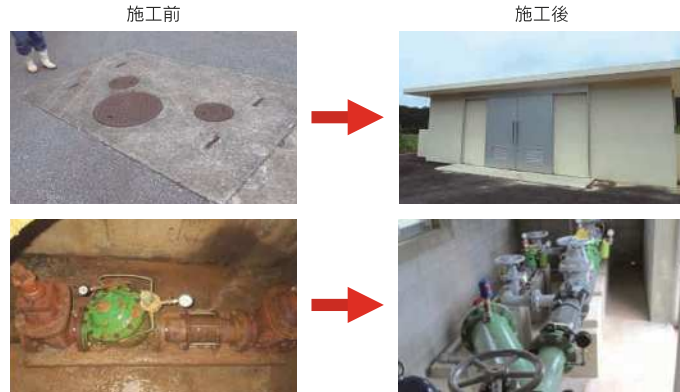


## トピックス

### 長寿命化・防災減災事業（久米島地区）

本地区は、県管かんがい排水事業及び県営ため池等整備事業により整備された地区であるが、施設の劣化や機能不全、末端のスプリンクラーの異常水圧による管路の破損も多く、営農や維持管理に多大な労力や費用の負担を要していた。

本事業で減圧弁の改修を行うことにより、施設の長寿命化、維持管理の負担低減による省力化及び水管理の効率化が図られる。



### 南城市 仲程ため池ハザードマップ作成

沖縄県では、農林水産省の国土強靱化アクションプランに基づき、防災重点ため池について、ため池が決壊した場合に迅速かつ安全に避難するための参考資料として「ため池ハザードマップ」を市町村と連携して作成しています。

令和2年度は、南城市内にある仲程ため池のハザードマップを作成しました。

作成するにあたって集落住民（代表として区長のみ）を中心としたワークショップを開催し、氾濫解析結果や過去の災害歴情報等を踏まえ避難場所やマップレイアウトなどを議論しました。完成したハザードマップは市役所から地域住民に公表しており、災害時を想定した避難の参考としていただくよう周知しています。

（ワークショップ開催にあたっては新型コロナウイルス感染症に係る沖縄県主催イベント等ガイドラインに基づき実施）



ワークショップの様子



### 海岸清掃活動

県では、毎年、美しい海岸景観や貴重な珊瑚礁の保全と背後の農地を守るために、地域の人々と協力しながら美化活動に取り組んでいます。これまでに佐敷海岸、知念海岸、真栄里海岸、百名海岸で実施され、例年、一般ボランティア300～400人名ほどが参加して、農地海岸の清掃活動を行ってきました。今年度においても南部管内で実施を予定していて、環境保全への意識高揚を図っていきます。



ボランティアによる清掃作業の様子

## トピックス

### 安定的な水産物供給体制の確保：当添漁港

沖縄県では、安定的な水産物供給体制の確保を目的として、当添漁港の新たな整備事業（事業期間：令和2年度～令和9年度）に着手しました。

当添漁港は、与那原町に位置し、ソデイカやマグロ類の陸揚げが盛んであり、特にソデイカについては、属地陸揚量が県内トップクラスを誇る生産拠点となっています。しかし、ソデイカ漁の好漁や漁場の沖合化を背景に冷凍機能を備えた大型漁船への転換や漁船数の増加が顕著に進んだ結果、係留施設の大幅な不足や船揚場利用時の安全性確保が課題となっております。

このため、不足する係留施設等の拡張や船揚場改良を行い、漁船の大型化や漁船数の増加に対応した漁港施設を整備します。これにより、荒天時における係留中の漁船同士の接触損傷被害の解消、岸壁整備による生産機能の強化、安全性の向上等が期待されます。なお、近年の全国的なイカ類の不漁の中、比較的安定した漁獲量を誇り、全国的に需要が高まっている沖縄のソデイカ漁においては、安定供給体制の構築によりさらなる発展が期待されています。

#### 事業内容

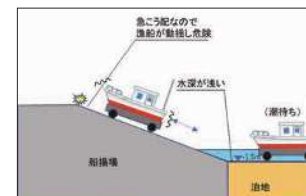
- ・主な事業量：波除堤（A）、北護岸（A）、東護岸（A）、-3.0m岸壁（A）、-3.0m泊地（A）、臨港道路（A）等
- ・事業費：2,129百万円
- ・事業主体：沖縄県
- ・事業期間：R2～R9



現状の課題  
岸壁が不足し、過密な係留状況（台風接近時）



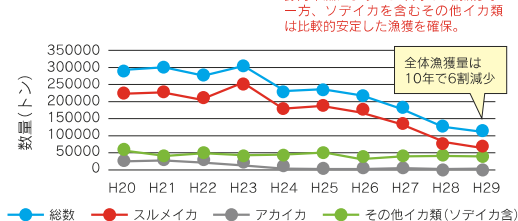
漁船破損状況



船揚場は大型漁船に対応するための整備が必要



### 全国 いかり類漁獲量推移



ソデイカの陸揚量は県内トップクラス